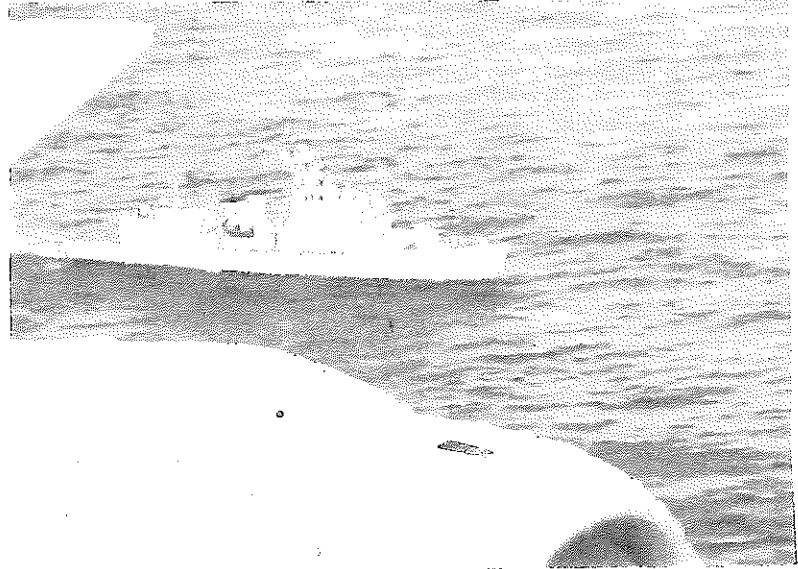


レーダー照射問題

韓国海軍駆逐艦は、海上自衛隊の哨戒機(手前)に火器管制用レーダーを照射した(防衛省提供)

昨年12月20日、韓国海軍の駆逐艦は海上自衛隊のP1哨戒機に火器管制用レーダーを照射した。危険極まりない行為で、日本は韓国側に強く抗議している。しかし、韓国は照射の事実を否定し、逆に、P1が「威嚇的な低空飛行をした」として日本に謝罪を求めた。

似たケースは過去にもあった。東西冷戦下にあった1983年9月、日本人28人を含む乗員・乗客計269人が乗った大韓航空機がソ連の領空で行方不明になった。当初からソ連機による撃墜が指摘されたが、ソ連は関与を強く否定した。



た。日本については逆に「自由民主主義と市場経済の基本価値を共有する」とあった記述が消えた。陸海空制服組トップの河野克俊統合幕僚長は、レーダー照射問題について「こちらには『確たる証拠』がある。韓国は事実を認め、再発防止に努めよ」と迫った。

日本は最近になり、レーダーの探知音を公表した。韓国はそれにも「機械の音だ」としてレーダー照射は否定してきた。

このままでは自衛隊員の生命を危険にさらしたレーダー照射問題は、日韓双方には不信感が残り、今後も泥沼化する恐れがある。

だが、日本は、撃墜時にソ連機が地上と交わした交信をひそかに傍受していた。

真の日韓友好に「確たる証拠」全開示を

日本は最近になり、レーダーの探知音を公表した。韓国はそれにも「機械の音だ」としてレーダー照射は否定してきた。

そんな撃墜の決め手となる「傍受テープ」は、防衛機密保護の観点から秘密とされたため、ソ連は、なおも撃墜への関与をかくくなくに否定し続けた。

踏み切る。この「確たる証拠」を前にして、ついに、ソ連も撃墜を認めたのである。

「友好国」とされる韓国で、ある点で、大韓航空機撃墜事件とは異なる。

日本は先頃、レーダーの探知音を公開したが、実はレーダーの周波数など、より詳細な「確たる証拠」を

俺がやらねば



永田町新潮流 平沢勝栄

そこで、「これ以上、韓国と話ししても真相究明はできない」として協議の打ち切りをしている。

この結果、ソ連は「嘘とごまかしの国」として国際社会から厳しい非難を浴びた。

だが、韓国は最近、とみに北朝鮮寄りの姿勢を強め、日本との友好関係は築ききつかけになると考え

それが、日韓両国間で、新たに真の友好関係を築ききつかけになると考え、いかにだろうか。(自民党衆議院議員)